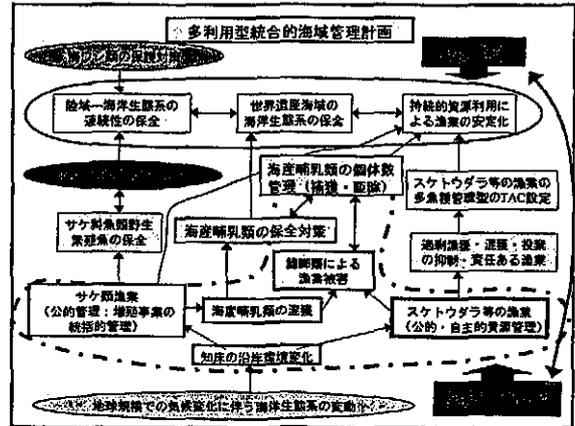


第二回海洋ワーキンググループ会議  
**多利用型統合的・海域管理計画**  
 に向けて  
 今後の海産哺乳類の調査計画



特定非営利活動法人  
 北の海の動物センター



**海産哺乳類の保全対策**  
 海産哺乳類の個体数管理(捕獲・駆除)に向けて  
 モニタリングとして

- 1) 来遊個体数の把握
- 2) 混獲状況の把握
- 3) 漁業被害実態の把握

断片的な情報しかない

H17年度 知床海棲ほ乳類回遊調査では、

季節ごとの傾向を徹底的に調査して、  
**モニタリング方法(時期・やり方)**を具体的に提言する

**H17年度 知床海棲ほ乳類回遊調査計画**

調査時期: 2005年9月~2006年8月、各月10日間ほど  
 調査場所: 羅臼・ウトロ・斜里

調査内容

- 来遊個体数調査
  - ・船によるライントランセクト調査
  - ・陸からの定点調査
  - ※航空機によるライントランセクト調査
 各方法の関係を把握する
- 混獲調査
- 漁業被害調査
  - ・漁法・魚場ごとに限定した漁業者において、漁業被害を見せてもらい、混獲があれば情報を収集、また混獲個体も可能な限り回収する
  - 混獲個体から、年齢(歯)・食性(胃内容)・繁殖履歴(生後器)・系統(DNA)等を調べ季節ごとの特性を把握する
  - ・アンケート調査など

補足 海鳥について

- ① 海の生態系の高次捕食者である
- ② 絶滅に瀕しているものが多い(一部はこの海域で繁殖している)  
 例) ケイマフリ・マダラウミスズメ・ウミガラスなど
- ③ 漁網への混獲やレジャー船などの脅威にさらされている